

# 甲賀圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 第1回協議会 報告

日時：平成23年3月16日(水)14:00~16:30

場所：湖南省役所 東庁舎 3階大会議室

本協議会は、甲賀土木事務所管内の2市(甲賀市・湖南省)が水害や土砂災害による被害を軽減するために国・県とともに設置するもので、専門的な学識経験等に基づく助言を得るとともに、自助・共助・公助が一体となった対策を検討していきます。

## 1. 開 会

会長の西田副市長(湖南省)より、「近年、甲賀圏域では人命被害を伴うような大きな災害が発生していないものの、過去に大きな災害を経験している。いかに命を守り被害を最小化させていくのかを、平常時から検討していくことの重要性は一層高まっている。本協議会を十分に活用し、活発な議論をお願いしたい。」との挨拶をいただきました。



## 2. 主な議事

### 協議会規約

開会に先立ち協議会規約の説明を行い、規約案のとおり承認をいただきました。第1回協議会の会長は湖南省の西田副市長に努めていただくことになりました。

### 協議会での検討内容(案)

市が抱える防災上の課題を解決していくという観点から、下記の3テーマで取り組んでいくことを提案しました。

#### 避難判断支援資料の検討

水位観測局と経験的危険箇所等(地域の要パトロール箇所や流下能力が低い箇所等)との水位の関連づけや簡易量水標の整備、避難勧告等の発令判断支援の検討を提案しました。

#### 水害に強い地域づくり計画の検討

モデル地区として「三雲地区(荒川流域)」を対象に、地区別避難計画の検討など当地区に効果のある減災対策を地域住民とともに取り組み、水害に強い地域づくり計画の策定を目指すことを提案しました。

#### 土砂災害に強い地域づくり計画の検討

モデル地区として「信楽町多羅尾地区」を対象に、要援護者施設や孤立した場合の対応など避難に関する課題に地域住民とともに取り組み、土砂災害ハザードマップや地区別避難計画の作成を進めることを提案しました。

## 意見交換

各委員から様々な意見が出ました。以下に、主な意見を箇条書きで示します。

- ・ ハード対策には限界があり、様々な対策を考える上では想定を越えることを前提として、過去の災害に縛られない体制で検討を進めるべきである。
- ・ 行政の配信する情報の質と、住民が求めている情報の質が同質ではなく、両者に情報の乖離があると思われる。共通認識ができるように相互の関係を高めていけるとよい。
- ・ 地域で情報伝達のネットワークを作ることは難しいが、モデル地区という形で地元に入っていく中で、作成できるのではないかとと思われる。
- ・ 水害と土砂災害は勧告の受け取り方が異なる。水災害の一番の死因は土砂災害であり、土砂災害の避難勧告における空振りに対しては非難の声が小さく、恐れずに発令してほしい。
- ・ 一方、水害だけでは死に至るケースが少なく、危機感は低い。水害はタイムリーなタイミングで適切なエリアに出すことが大切であり、モデル地区で具体的に進めてほしい。
- ・ 滋賀県の川や砂防では一定の整備が出来ていない。整備の状況がどうであるのか、維持管理でクリアすべき状況などを地域に十分理解してもらったうえで検討を進めていただきたい。
- ・ 予定している整備内容を、県・市を問わず統合的にまとめて地域に配信されていく方が良い。
- ・ 他地区に展開する際に、モデル地区と同じように手厚く展開できないので、注意しておくべきポイント等を整理していければ良いと思う。
- ・ 新たなハード整備が必要ということではないが、ハードの面を無視した話しは難しい。ハードの果たす役割と逃げることを合わせ技で考えていかないといけないと思う。
- ・ 孤立化の問題は、孤立化していることをわかってもらえないことが課題であり、双方向の通信の話しと絡めて議論されれば良いと思う。
- ・ ハードの話しは重要であるが、ハードの見通しが付いたとしても、工事が完成するまでに時間がかかる。一方、災害は明日来るかも知れない。ソフトの防災は明日からできるものであり、ハードの有無に関わらず検討できるという観点が大切である。



## 結果

これら各委員からの意見を踏まえつつ、提案内容で実施していくことになりました。

## 3. 閉会

流域治水政策室の西嶋室長から、「大きな災害はいつ起こるかわからない。今まで以上に市と県や国が連携・協力し、地域に応じた実効性のある対応策を検討し、それを地域住民に深く浸透させること必要であり、皆さまの協力をお願いしたい。」との閉会の挨拶を行いました。